

第5学年音楽科学習指導案

- 1 題材名 リズムアンサンブルをつくろう
教材名 表現「リズムアンサンブルづくり」

- 2 題材について
《学習指導要領とのかかわり》

A 表現	(3) ア (ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。 (イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。 イ (ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴 (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴 ウ (ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組合せたりして表現する技能 (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能
[共通事項]	ア (ア) 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。 音楽を特徴付けている要素…音色、リズム、速度、強弱、音の重なり、拍 音楽の仕組み…反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係

(1) 題材観

本題材では、楽器がもついろいろな音色のよさを生かして奏法やリズムを工夫し、音楽の仕組みを生かして、音楽をつくる力を育成することを目的としている。

学習指導要領に示されている「音楽づくりの様々な発想」の中で、音色が果たす役割は大きい。同じ楽器でも奏法を工夫することで多様に変化させられる音色の面白さや、音色が似ている楽器を用いて響きをそろえるよさなどを感じ取らせながら、思いや意図をもってリズムをつくらせたい。音色にこだわってつくったリズムを友達と重ねたり、つなげたりしながら音楽をつくる過程において、音楽をどのように変化させるかという考えをもたせ、全体のまとまりを意識して音楽をつくる力を育てることをねらっている。

また、音色に着目して音を選び、音楽をつくることは、中学校の学習指導要領に示されている、「音素材の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する」ことにつながる。さらに、音色を意識して音楽活動を行う経験は、全体の響きを味わう耳を養うことにつながる。このような学習を行わせることによって、児童が今までよりも深く音を聴き、味わうことができるようになると考える。

(2) 指導観

本題材では、4分の4拍子2小節のリズムをつくらせ、4人グループで重ねさせる。2小節の長さを生かしたリズムパターンがつかれずに、1小節のリズムを繰り返すだけになってしまう児童もいると思われるが、本題材ではどちらでもよいこととする。リズムアンサンブルづくりの条件は、「全員が同じ楽器を使う」「1パートずつ音を増やしてだんだん重ねていく」「楽曲の途中で聴いている人があつと驚く仕組みを入れる」の3つである。

「全員が同じ楽器を使う」という条件は、児童の思考を楽器の音色に向けさせるためである。ここでいう「音色」とは、楽器の奏法や音高によって多様に変化する音の特徴のことである。実態調査の結果からわかるように、児童はいろいろな音を組み合わせたいという思いをもっているので、グループの全員に同じ楽器を使わせることで、音色を増やすために奏法や音高を変えたいと考えさせることができるだろう。

「1パートずつ音を増やしてだんだん重ねていく」という条件は、児童の活動を安定させるための手立てである。この始め方は既に行ったリズムアンサンブルづくりと同じであり、児童が親しんでいる音楽の仕組みの1つである。1パートずつ音が増える中でそのリズムをよく聴き、安定してから次のパートを増やすことで安心してアンサンブルに取り組ませることができるだろう。もし児童が違う始まり方にしたいと言った場合はその考えを尊重する。

「聴いている人があつと驚く仕組みを入れる」という条件は、音楽の仕組みを工夫させるための手立てである。「あつと驚く仕組みを入れる」とは、変化をつけるということである。ここでも、1つめの楽器を限定する条件が役に立つ。楽器の種類を限定されているため、音楽を変化させるためには音楽を形づくっている要素に目を向ければよいと、容易に気付かせることができるだろう。ここで多様な要素を選択することができるように、常時活動で様々な音色・リズム・音楽の仕組みに触れる経験を十分に積みさせておきたい。また、中間発表（第2時）では、金属の楽器を使うグループ、木の楽器を使うグループ、皮を張った楽器を使うグループごとに演奏を聴き合い、音楽の仕組みを工夫するための情報交換の場とする。

実態調査の結果から、グループ全体の音色を考えることができている児童の多くが、種類の違う楽器を混ぜた方がよいと思っていることがわかった。指導者のこれまでの経験からも、児童はいろいろな種類の楽器を混ぜた方が楽しいと感じているという実感がある。そのため、本題材で設定する同じ楽器を使う条件は児童にとって意外なものであろう。しかし、同じ種類の楽器で音色をそろえることには二つの意味がある。一つは既に述べた、奏法や音高によって変化する多様な音色に気付くことができるという点である。もう一つは、音色が近い楽器を集めることによって得られる音の統一感である。このよさは、発表会で感じ取らせたい。同じ楽器という条件の中でつくった各グループの音楽を聴き比べれば、それぞれの楽器がもつ音色の特徴を聴き取ることができ、音色を統一することのよさを感じ取らせることができるだろう。このような活動を行うことによって、今後行う器楽の活動や音楽づくりの活動において、全体のバランスを聴きながら楽器を選択したり、旋律やリズムに合った奏法を考えたりする児童を育てることができると思う。

3 題材の目標

- ・ 楽器がもついろいろな音色のよさを生かして奏法やリズムを工夫し、音楽の仕組みを生かして、音楽をつくる。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係を生かし、音を音楽に構成することに興味・関心を持ち、見通しをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	楽器の音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係を生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法などについて自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。	反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係を生かし、見通しをもって音を音楽に構成している。

5 研究の視点について

【視点2】 音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

○リズムアンサンブルづくりのルールを示す

・使用する楽器を限定する

グループの全員が同じ楽器を使うというルールを設定することで、児童の思考は音色へと向かう。試行錯誤しながら自分たちのグループの音色を決めたり、友達の演奏を聴いてそのよさを感じ取ったりする活動を通して、多様な楽器の音色と組み合わせを聴き取り、それぞれの特徴を知識として獲得するようになる。獲得した知識は次に自分の音楽をつくることにつながっていく。使用する楽器を限定することによって児童の思考を焦点化し、音色という要素について深く考えさせることができると考える。

・変化のある音楽づくり

本時では、「聴いている人があっと驚く仕組みを考えよう」という発問をする。この発問によって、児童が変化のある音楽づくりに取り組むことをねらう。児童は、全体のまとまりを意識して、A-B-AやA-B-A-codaをつくることが多いと予想される。Bの部分をどのように変化させるか考えさせることで、どのような音楽をつくるかについて見通しをもたせることができると考える。

○つくる活動と聴く活動の往還

自分のリズムをつくる時（第1時）と、中間発表の時（第2時）、発表会（第3時）の計3回、友達の演奏を聴く活動を取り入れる。友達の演奏を聴き、その工夫を話し合う活動から得られる学びは非常に貴重である。本題材で着目している音色について、いろいろな演奏を聴き、工夫を感じ取ることで、いろいろな楽器の音色と、それらが生み出すよさや面白さを学び取ることができるだろう。自分の音を聴き、自分の音をつくる。友達の音を聴いて、再び自分の音をつくり直す。このように、つくる活動と聴く活動を往還させることで音楽的な見方・考え方を働かせながら音楽づくりを行わせることをねらう。また、学習のまとめである発表会で聴き取ったり感じ取ったりしたことは次の音楽づくりへとつながっていくと考える。

6 題材の指導計画及び評価計画 (3時間扱い)

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
1次	1	ねらい 打楽器の音色や音楽の仕組みを生かして、リズムアンサンブルをつくる。 ○リズムアンサンブルのルールを知り、グループの響きを聴きながら楽器の特徴を生かして自分のリズムを決める。 ・友達の演奏と合わせながら8小節のリズムパターンをつくる。 ・順番を変えたりリズムを変えたりしながら始め方を決める。 ・奏法を工夫して多様な音色で合奏しているグループの演奏を聴き、参考にする。 ・終わり方を工夫する。	反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係を生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、見通しをもって音楽を作る学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度)
	2 (本時)	○あっと驚く仕組みを考えて、変化を生かした作品をつくる。 ・本時のめあてを知り、楽曲の中間部をつくる。 ・同じ種類の楽器同士で演奏を聴き合い、どのような仕組みを使って変化をつけているか話し合う。 ・発表会に向けて練習する。	楽器の音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら変化を生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法などについて自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。 (音楽表現の創意工夫)
	3	○グループごとに発表会を行い、友達の演奏のよさを見付ける。 ・楽器の音色や音楽の仕組みが生み出す響きの面白さを感じ取りながら演奏する。 ・友達の演奏のよさを見付ける。 ・楽器の組合せによる雰囲気の違いを聴き取る。	反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係を生かし、見通しをもって音を音楽に構成している。 (音楽表現の技能)

7 本時の学習 (2/3)

(1) 目標

○奏法やリズムを工夫しながら、音楽の仕組みを生かして変化のあるリズムアンサンブルをつくる。

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準 (評価方法)
3分	1 常時活動をする。 ・手拍子回し ・リズム回し	○拍節感を養い、いろいろな音色・リズムに触れられるようなルールを設定する。 ○活動を支えるリズムを教師や児童が演奏する。
4分	2 前時につくった音楽(A-coda)を演奏し、終わり方を確認する。	○「打ち方(打つ場所も含む)」「楽器の大きさ」「打つ道具」の3つの視点で工夫できることを掲示で示す。
<p>音楽づくりのルール</p> <p>①グループ全員が同じ楽器を使う。</p> <p>②1人2小節のリズムをつくって重ねる。</p> <p>③終わり方を考える。</p>		

3分	<p>【児童が使用する楽器】</p> <p>ギロ、カスタネット、クラベス、 トライアングル、シンバル、すず サウンドシェイプス、タンブリン</p> <p>3 本時のめあてを知る。</p>	<p>○楽器が壊れないように注意すれば、いろいろな打ち方を試してよいことを伝える。</p> <p>○前時につくった音楽を演奏させ、奏法や終わり方の工夫を想起させる。</p>
20分	<p>聴いている人があつと驚く仕組みを入れて、リズムアンサンブルを完成させよう。</p> <p>「途中でリズムを変えようかな」 「速さを変えてみようかな」 「急にみんなで休むのも面白いよ」</p> <p>4 中間部の構成を工夫し、楽曲に変化をつける。</p> <p>【工夫の仕方】</p> <p>○呼びかけとこたえ ○反復 ○音楽の縦と横の関係 ○速度 ○強弱 ○奏法 ○リズム ○マレットの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2部屋に分かれ、グループごとに活動する。 ・中間部の音楽をつくったら、始めから終わりまで演奏する。 ・中間部の音楽が完成したら、音楽の構成をイメージ図に書く。 	<p>○「聴いている人があつと驚く仕組み」にはどのようなものがあるかグループで話し合わせる。</p> <p>○音色、リズム、速度、強弱、呼びかけとこたえなどがヒントになることを板書で示す。</p> <p>○各グループを回り、工夫できている点を称賛したり、より良い工夫の仕方を助言したりする。</p>
10分	<p>5 変化の工夫を聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あつと驚く仕組みをどのようにつくっているか聴き合う。 ・どのような工夫をしていたかや、聴いて 	<p>◆楽器の音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら変化を生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法などについて自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。 (音楽表現の創意工夫) (態度観察・発言)</p> <p>○音色、リズム、速度、強弱の中から変化させたいものを選ばせたり、変化の例を提示して選ばせたりする。</p> <p>○音色、リズム、速度、強弱の中でどれを変化させていたかや、どうやって(打つ場所、打つ道具などによって)変化させていたかを聴き取るように助言する。</p> <p>○いろいろな演奏の工夫を見付けさせ、自分の</p>

5分	<p>感じたことを話し合う。 「ゆったりしたリズムが激しくなった」 「違う場所を打つと音が変わってよい」 「同じリズムを繰り返しながら速くなったから盛り上がった感じがする」</p> <p>6 変化の工夫を取り入れてアンサンブルを完成させる。</p>	<p>楽器でも使えるものがないか問いかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イメージ図を拡大して提示し、演奏を聴かせることで、変化の工夫に気付かせる。 ○「あっと驚く仕組み」が完成したグループには、ルールをイメージ図に記録しておくように伝える。 ○リズムアンサンブルがこれでよいか、発表会に向けて意欲的に練習するよう励まし、声をかける。
----	---	--